

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第11号



目次	同窓会会長あいさつ	1
	保健学教育部長あいさつ	1
	卒業生の寄稿	2
	在校生の寄稿	4
	職場紹介	5
	同窓会総会議事録	6
	特別講演	7
	同窓会報告	8
	熊本大学卒業生表彰	8
	国家試験合格状況	8
	平成26年度卒業生の進路状況	9
	保健学科教員紹介	9
	同窓会会則・細則	10
	平成27年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員	11

平成28年度保健学科同窓会総会、
特別講演、懇親会のご案内

日時：平成28年7月2日（土）
14時00分より

場所：熊本大学医学部保健学科

住所変更・会報不要の方は、下記にご連絡ください。

TEL：096-382-1177（小野高速印刷）

メール：kumamoto@ohp.co.jp（小野高速印刷）

同窓会へわがまを！！

保健学科同窓会会長 **橋田昌弘**（熊本大学医学部附属病院 医療技術部）

日頃より、同窓会活動へご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

平成27年7月4日に第12回総会・特別講演会・懇親会を開催し、総会へ64人（内：学生40人）、懇親会へ40人（内：学生23人）の参加を頂き心から感謝申し上げます。前回に比べ学生さんの参加が大幅に増え嬉しい限りですが、一方で、卒業生の参加が減り微妙なところではあります。今回の特別講演は、KKTアナウンス部 村上美香様に「からだとココロの話—子宮頸がんの体験と取材から—」と題してご講演をお願いしました。ご自身の子宮頸がん罹患体験と番組「テレビタミ」での取材内容から、子宮頸がんの正しい知識と検診の大切さを話されました。今回は、村上様に、医療スタッフやその学生に、患者の気持ちを良く知って欲しい思いがあり、ご講演が実現しました。今後も、特別講演には、いろいろな分野の方をお呼びできればと思っています。また、今年から新しい企画として、看護、検査、放射の各卒業生による職場紹介を行いました。参加した学生さんから好評を得ましたので、今後は連続企画にしたいと思っています。

平成27年5月30日に第6回東京連合同窓会が東京ガーデンパレスで開催され、10月3日には第2回九州連合同窓会がホテルセントラザ博多で開催されます。保健学科同窓会は、地元熊本では7月第1土曜日で毎年開催されますが、熊本以外に就職された卒業生には、参加はなかなか難しいと思います。連合同窓会は、東京と関西が隔年（来年は大阪で）、九州は毎年で開催場所が隔年で熊本と他県の開催となります（今年は福岡、来年は熊本）。熊本以外にお住まいの皆様、是非参加してみてください。特に、東京連合同窓会では、保健学科同窓会の役員（松下氏）がいますので、ご連絡を頂ければ幸いです。可能な限り、同窓会の輪（和）が広がることを期待します。

今年度は、5年に一度の「同窓会名簿」の更新の年です。同窓会が名簿更新を委託しました小野高速印刷（株）さんが、皆様へハガキ等で確認のご連絡をします。同窓会名簿は、同窓会のデータベースであり正確さが求められます。是非、正しい情報の提供をお願いしますと共に、可能な限り名簿の購入にもご協力頂けると幸いです。

同窓会としましては、例年、総会と懇親会の開催や会報の発行等を行っていますが、総会・懇親会への参加者は、同窓会員数（約7,600人）と比べると微々たるものです。役員一同、まずは、「人が集まる」魅力ある同窓会を目指していますが、そのためには、会員の皆様の「わがま」が必要です。皆様のニーズが、同窓会の方向性を決め、魅力ある同窓会につながると考えています。是非、遠慮なく、同窓会へ「わがま」を言って下さい。財政が伴うものは即答できませんが、可能な限り「わがま」を通す努力をします。皆様の「わがま」をお待ちしています。

平成28年7月2日の第13回総会・講演会・懇親会にて、皆様にお会いできることを楽しみにしています。

今後とも、同窓会をよろしく願い申し上げます。

大学・保健学科の現況

保健学科長・大学院保健学教育部長 **吉 永 一 也**

同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素より保健学科に対しご支援をいただいておりますこと、誠に有り難く存じます。ことに昨年末（平成26年12月20日）に開催した保健学科設立10周年記念会・祝賀会に際しましては、多数のご出席とご支援を頂きましたこと改めて御礼申し上げます。当日の様子や式次第は保健学科Webサイト（<http://www.hs.kumamoto-u.ac.jp/>）にアップしております。是非ご覧ください。卒業生若手3氏による近況報告も、レベルの高い素晴らしい内容でした。

さて、例年の国家試験合格状況、卒業生の進路、保健学科教員紹介などについては、本誌に別途掲載されるとのことですので、ここでは、この1年間の本学および保健学科の現況についてご報告いたします。

本年4月、原田信志先生（本学医学部・昭50卒）が第13代学長に就任されました。熊本大学は現在、文科省による「研究

大学強化促進事業」「地（知）の拠点整備事業」「スーパーグローバル大学創成支援事業」の3採択に伴い、研究拠点大学、地域貢献大学、国際的に開かれた大学を目指し、新学長の強いリーダーシップのもと教育改革や研究戦略等に積極的に取り組んでいます。保健学科・大学院保健学教育部においても、その機能強化を図るためには第3期中期目標期間（平成28～33年度）を見据え、教育の充実と研究の先鋭化が必須と考えます。そこで、まずは教育研究環境を整備するため、昨年度末にA・C棟の5講義室を机・椅子含めリニューアルし、また全学生と教職員の健康を守る目的で、本年4月より「保健学科敷地内の全面禁煙」に踏み切りました。さらに、念願のC棟エレベーター設置も平成28年1月末の完成に向け、工事がスタートしたところです。こうしたより良い環境の中で、教育研究の一層の充実と進展が期待されます。

今後とも、保健学科・保健学教育部のさらなる発展のために、同窓会の皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



卒業生の寄稿

楽しく感染管理をモットーに

熊本中央病院

田上 恵梨（医療技術短期大学部看護学科 24期生）

私は熊本大学を卒業後、熊本中央病院に就職し、昨年度より感染管理認定看護師として専従で勤務をしています。私は看護師として患者さんと直接関わることにやりがいを感じていましたので、感染管理の道を選ぶことに少し迷いがありました。しかし、サーベイランスデータから感染率の低下が明らかになったり、医師や他職種とディスカッションをしながらケアの改善ができた経験から感染管理の楽しさを知り、感染管理認定看護師を目指すことを決めました。

私が認定看護師として勤務を始めた頃、以前一緒に病棟でお世話になった医師より「感染の仕事は大変だと思うけど、あなたが大変そうにしていると周りも、感染って大変なんだな、きつそうだなと思うから楽しく仕事をせなんよ。」と言葉をかけていただきました。組織横断的に活動をする中で、時には悲しい思いをすることもありますが、そのような時にはいつもこの言葉に励まされ、また頑張ろうという気持ちになります。また、うまくいかない時には不思議と自分の味方になってくれる人が現れるもので、多くの人に支えられているというありがたさを日々実感しています。日々の業務では様々なことが起こりますが、やはり自分で選んだ感染管理の道は大変楽しく、やっていてよかったと思うことがたくさんあります。今後も、「あの人なんだか楽しそう、感染管理って楽しいのかしら。」と思ってもらえるような活動を心がけ、少しずつ周囲の協力を得ながら前に進んでいきたいと思えます。

細菌検査室の役割—社会人大学院生として—

長崎大学病院 検査部

村田 美香（保健学科検査技術科学専攻 4期生）

私は、大学4年の頃、就職と進学の間で悩んでいました。縁があり、進学ではなく、長崎大学病院に就職しました。入職後も研究には興味があったので、今年の4月より、社会人大学院生として長崎大学大学院博士課程に入学しました。

当院の検査部には社会人大学院生が数人おり、業務の傍ら、各自テーマをもって研究を行っています。修士課程を卒業していない私には、博士課程の受験資格を得るために、働きながら研究を行ったという、4年の期間が必要でした。入職してから4年間は、大学院生に混ぜて研究をさせてもらいながら、週に1回のカンファレンスにも参加させてもらっていました。はじめは、大学院生の研究報告や、英語論文の抄読会についていけず、大変でしたが、自分も研究を行うようになり、研究テーマ以外の論文や発表からも多くのことを学ぶことが出来ました。

大学院での私の研究テーマは細菌検査につながることもあり、昨年10月から、4年半勤めた生化学検査室より細菌検査室に異動となりました。細菌検査室に異動して驚いたのは、ルーチン業務以外の業務の多さです。県内の外部病院からの遺伝子解析の依頼・原稿の執筆・研究支援としての業務。細菌検査室への依頼は時に研究的な内容を含むこともあります。今後、臨床の声に応えるためには、大学院での勉強が生きていくと感じています。

業務終了後の研究は夜遅くまでかかることもあり、休日に行くことも少なくありません。これからの4年間は特に時間を効率的に使うことが求められると思いますが、限られた時

間の中で多くのものを身につけられるよう、過ごしていきたいと思っています。

記憶・記録・写真

佐賀大学医学部附属病院 放射線部

廣木 昭則 (医学部附属診療放射線技師学校 12期生)

熊本大学医学部附属診療放射線技師学校を卒業して、早30年以上経ってしまった。光陰矢の如しで、60歳の定年を2年半後に控えるまでを過ごしてきた。

熊本大学医学部附属診療放射線技師学校に進学したいと思った理由を自分に問いただすと色々な理由があったと思うが、その一つに「写真」があった。小学生の頃、春、秋の夜自宅の居間に写真の引き伸ばし機を設置し、モノクロ写真の印画紙へのプリント作業を父が行い、家族みんなで作業の補助を行った。半年間撮り溜めた、モノクロネガフィルムの一コマ一コマを印画紙に焼き付けて、現像・停止・定着液につけて、水洗いする。乾燥機はないので、ガラス窓に張り付けて自然乾燥する。翌日朝に乾燥して丸まって床に落ちた印画紙を集めてアルバムに貼る。我が家の遠い昔のイベントであった。赤い色のセーフライトの暗い空間の中で、現像液につけた印画紙からふわりと現れる画像に見入っていた。カラーネガフィルムでの撮影が一般大衆に普及するまで、我が家のアルバムは全て父、家族の共同作業で作成された財産である。

1989年に日本放射線技術学会九州部会の学術大会が佐賀県で開催となり、予稿誌の表紙の写真を会員から応募する企画が持ち上がり、小生が担当になった写真店に出入りしているうちに、写真仲間が増えて、アマチュア写真クラブを発足することになり、メンバーに加わり、仕事以上?に写真に関する勉強と撮影旅行に出かけ、楽しい時間を過ごした。

この頃、一番の目標は年1回開催される佐賀県美術展への入選である。佐賀県在住のアマチュア写真家が力を注ぎこんだ作品が毎年400点以上出品され、入選は約100点程度の狭き門である。県美術展で、初めて入選したのは、長女をモデルにして隣の神社の階段で撮影した作品で、挑戦して3年目であった。初めての入選は作品以上に、構想、準備に長時間かけ、天候を見ながら数回チャレンジしたことが記憶に残っている。それから20年余、その時の思い(構想)を数年かけて写真として形に残し、佐賀県美術展へ出品し、数回の入選、1回の入賞をすることができた。最近3年は一休み状態である。1年1枚の作品はその時の自分の思いの記

録であり、写真の中には、構想、音楽、気温、情操が滲んでおり、自己財産と勝手に思い込んでいる。

写真を撮るには、当然カメラが必要だが、カメラより欲しくなるのがレンズである。アマチュア写真家の中では有名な言葉で“レンズ沼”がある。欲しいレンズに次々に手を出して、沼から這い上がれなくなる状態である。私も、一次期レンズ沼で溺れかけ、広角から、超望遠までの多くのレンズを所有した。今はレンズ沼の畔に腰を掛けた静観状態で、レンズ群は保管庫の中で静かに眠っている。そして、“レンズ沼”よりはるかに恐ろしいウィルス感染がある。“Leica ウィルス”である。Leica＝ライカはドイツの光学機器メーカー、エルンスト・ライツのブランドであり、カメラブランドの頂点である。昭和30年頃はLeicaカメラ1台で家1件が購入できたとされるほどの高額であった。現在でも他のカメラとは一桁違う。できるだけ感染しないように、衛生面を心がけていたが、8年前に感染してしまい、今でも後遺症に悩まされ(楽しみ?)ている。

レンズ沼に溺れ、Leicaウィルスに感染したが、この数年は写真を撮る機会が少なくなってしまった。時間と心の余裕がないとシャッターを押すまでにたどり着けない。それでもネットでの写真やカメラの情報収集は継続している。最近、ハービー山口(プロ写真家)のコラムに出会った。写真を通じての“生き方”をさらりと表現して、読み終わった時に大変心地よい。コラムの一文に、写真を撮るときにカメラマンは「緊張しないで笑ってください。」とよくリクエストするが、たいてい笑い顔は作り笑い、もしくは緊張を伴ったぎこちない表情になる。でも「いい顔してくださいね～」とリクエストすると人はそれぞれ緊張しながらも、瞬間にいい気持ちでいい顔になるとあった。これから写真を撮られる時にはいつでもいい顔になって、記録・記憶に残るようにしたいと、心の片隅で思う今日この頃である。



在校生の寄稿

臨床実習を振り返って

看護学専攻4年 杉埜 結

私は高校1年生の時に看護師を志し、この熊本大学に進学しました。入学した当初は勉強が楽しみで仕方なかったものの、未知の分野を一から勉強するのは予想以上に大変であり、モチベーションを維持するのにとても苦労しました。そんな中でも、私の一番のモチベーションとなったのが、臨床実習の存在です。

もちろん臨床実習には苦労が付き物で、今振り返っても、圧倒的に苦い思い出の方が多かったと思います。しかし、そんな中でも、実習で学んだ事・悩んだ事が、講義での学びと繋がる瞬間があったり、毎クールを終える度に実習を乗り越えた達成感に包まれたりと、良い思い出もありました。そして何より、患者様の喜んだ顔・言葉や、良い仲間・先生方、理想とする看護師像に出会えたことが、大きな収穫となりました。

知識も技術も経験もない看護学生が、患者様のために唯一出来ること、それは一人一人の患者様と時間をかけてじっくり向き合えることだ、と私は思います。未熟ではありましたが、自分なりに真正面から向き合い、一緒に悩んだからこそ、実習のつらさも喜びも感じる事が出来たのではないかと思います。

4月からは看護師として働くことになります。そこには、学生時代にはなかった「専門職としての責任」も発生します。今までの実習で学んだ事に加え、専門職としての知識・技術でも患者様・ご家族を支えられるように、これからさらに学びを深めていきたいと思っています。

病院実習で学んだこと

放射線技術科学専攻4年 山口 裕貴

私は、10週間の病院実習を通して、将来目指す診療放射線技師について考える機会とすることができました。病院実習が始まる前は、ただ漠然と、病院で働き始めて活かせる知識を現場の放射線技師の方々から学ばせていただくということを考えていました。

実際に実習が始まってみると、放射線技師として学ぶべき非常に多くの知識を、たくさんの技師の方々から教えて頂き学ぶことができました。この学んだ知識は、放射線技師になるにあたってなくてはならない知識で、まだまだ自分に足りないことが多いと実感させられました。

しかし、現場の技師の方たちを見て、最も自分が学ぶべきことは、放射線技師としての振舞い方だと思いました。働いている技師の方々を目の当たりにして、すぐにそう感じました。患者と対面した時の挨拶、検査中の声掛けなどの患者とのコミュニケーションの取り方は患者によっても異なり、その対応の仕方、初めて検査を受ける患者にも安心感を与えることができるのだらうと思い、その安心感のために接し方を考えられる放射線技師を目指したいと考えました。

放射線を利用した検査に対して、あまり良いイメージを持たれていない人もいる中で、どの患者にも安心感を与えることができるように、知識と接し方を学べた非常に有意義な実習とすることができました。

今回の実習でお世話になった放射線技師の方々に感謝し、さらに理想の技師像に近づく努力をしたいと思っています。

大学生活を振り返って

検査技術科学専攻4年 比良 泰士

ここ保健学科で過ごした5年間は高校生のころの私が想像していたキャンパスライフとは全く異なるものでした。

大学1、2年生のころは専門科目の講義に追われて、将来は医療従事者になるという自覚もなく、テストのために仕方なく勉強していました。そんな私を変えてくれたのは、病院見学で実際に臨床の現場を目の当たりにしたことでした。技師さんが患者様に接しているのを見ながら、将来の自分が何となくイメージできるようになりました。そこからの大学生活は少しずつですが、毎日に変化してきたように思えます。

今現在は就職試験のための勉強と卒業研究に精を出す毎日です。

そんな5年間の大学生活で最も得られたものは交友関係です。

医療医学の知識はもちろんのこと、コミュニケーション能力や人間関係を深めることができたのは何よりも財産です。私は本当に恵まれていると思います。これまで多くの人と出会い、いろんな考えや世界観を学ぶことができました。両親や友人、先輩後輩、先生方など恵まれた環境があったからこそ今の自分があるのだと思うと、感謝の言葉も見つかりません。とくに、臨床実習の際に三か月近くを共に過ごしたメンバーには、とても感謝しています。彼らから刺激を受けて多くのことを学んだり、協力し合ったりすることも何度かありました。彼らがいなかったらこそ臨床実習がとても充実したものになり、人としても一回り成長できたのではないかと思います。

私を育ててくれた保健学科への感謝の思いは、在校生のために微力ながらも力を貸すことで恩返しできればと思っています。

最後に、5年間懇切丁寧にご指導して下さった先生方には本当に感謝しています。

大学院での研究生活

保健学教育部博士後期課程1年 吉本 賢史

2009年に検査技術科学専攻に入学し、友人の皆と切磋琢磨しながら膨大な量の医学の知識・技術の習得に励んでいた私が、大学院に進学したいと考えたのは3年生の時でした。それまでは漠然とした「がん」への興味でしたが、特に発がん研究の現状とその重要性について学んだことで現在在籍している研究室の門を潜りました。私は研究室初日に聴いたお話の中で、特に衝撃を受けた言葉を今でも覚えています。それは「そもそも発がん機序については、不明な点が数多く残っている」ということです。そして、その後研究を進めていくにつれて、この言葉の意味を痛感しました。発がん機序の研究を難しくしているのは、一口に「がん」と言っても、発がんには多数の要因が複雑に絡み合い、加えて患者様ひとりひとりでその要因が異なることで、結果として多種多様ながん形成が起こるためです。とはいえ、少しずつがんの実態についての解明は進み、徐々に霧が晴れてきています。私の所属する研究室でも、婦人科癌を中心に発がん機序の研究を行い、最終的には早期診断法や新たな治療法の確立という形で臨床の場に還元できるように日々研究に精進しています。

発がん研究は、がん治療を向上させるだけでなく、患者様の希望につながる非常に重要な研究分野です。私も、研究室の先生・メンバーや日々私を支えてくれる方々への感謝を忘れず、これからも発がん研究に取り組んでいきたいと思っています。

職場紹介

熊本整形外科病院 看護部

井村 昭寛 (医療技術短期大学部看護学科 18期生)

熊本整形外科病院看護部は、病院の基本理念である『整形外科領域における高機能医療サービスの提供』に基づき、やさしさと思いやりのある看護ができるよう心がけています。当院は、年間約3,000件の手術を行っており、脊椎・脊髄外科、手の外科、骨折、外傷外科、関節外科、スポーツ外科、リウマチ科など、整形外科分野で専門性の高い医療を提供しています。入院される患者様の回復される過程において、受け持ち看護師が入院時から退院時までを担当し、入院中は「何が患者様にとって大切な事なのか」を、患者様と一緒に考えて看護できるよう努めています。

看護部の理念・目標としまして、1.「チーム医療」2.「人材育成」3.「地域連携」の3点に力を入れています。この中で特に2.「人材育成」の中の新人看護師教育には「プリセプターシップ制度」を取り入れ、先輩看護師から年間を通じて指導及び助言を受けることができ能力開発をサポートします。また、研修会・学会等の参加は公務出張とし、費用の支援も行っています。キャリア開発として、いろいろな研修受講や資格を取得し現場で活躍しているところです。研修や資格については、「登録リウマチケア看護師・BLS/ACLS研修・臨床指導者研修・介護支援専門員(ケアマネジャー)・滅菌技師・士(第1・2種)・医療環境管理士・自己血輸血看護師・認知症ケア専門士・運動器看護師・医療安全管理者・認定看護師・ファーストレベル研修・セカンドレベル研修」などになります。さらには、仕事と家庭の両立ができるように、子育て時期の短時間勤務や、保育施設との提携など、様々な取り組みを行っています。

看護部スタッフが常に笑顔で、明るく、活動的なことが看護部の誇りです。これからも患者様に信頼される医療、看護の提供に努めていきます。

長崎大学病院 検査部

村田 美香 (保健学科検査技術科学専攻 4期生)

長崎大学病院は病床数862床で長崎県内の唯一の大学病院として中心的な役割を果たしています。

私の勤める検査部は検査技師63名で構成されており、検

体検査室・生理検査室・細菌検査室・遺伝子検査室・輸血検査室に配属され、それぞれの検査業務に従事しています。ほとんどの技師が、午前中の採血業務に従事し、9ブースある採血台は看護師4名、検査技師5名で担当しています。1日の患者数が300人を超えることが多く、採血の難しい患者さんも多いためスピードと技術が必要となります。また、入院患者の検体数が多い毎週月曜日には、入院検体の結果を外来患者受付前に返す取り組みや、研究支援室として臨床研究に協力するなど、より臨床に近い検査室を目指しています。現在は来年のISO15189取得に向け、準備を進めているところです。

通常の検査業務に加え、医学部生への指導や外部病院からの見学や解析依頼、研究業務も行っていることが、大学病院の特色であり、多忙ではありますが、さまざまな視点から多くのことを学べる場所であると感じています。

熊本大学医学部附属病院 医療技術部

丸山 雅人 (医療技術短期大学部診療放射線技術学科 14期生)

本院は、平成18年8月厚生労働大臣より「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。これは、我が国のがん医療水準の「均てん化」の実現に向けた体制の整備における、地域がん診療拠点病院の機能の充実や診療連携体制の確保などを推進するためであります。我々の部門(中央放射線技術部門)では高機能な放射線医療機器を駆使して、患者様(各診療科)へ高度な診断に必要な画像を提供しております。また、がん診療に不可欠な放射線治療においても、県内のみならず九州をリードする高度な放射線治療を展開しております。このように、大学病院としての役割以外にも、がん診療連携拠点病院の役目も担っています。さらに「医療水準の均てん化」の目的のために、地域の関連施設と連携を深めながら、各種セミナー、研究会などを開催しております。今後は地域に対する更なる貢献のためにも診療放射線技師の人員、および能力の充実を図り本院における医療水準の向上をめざし、ますます関連施設との連携を強化して参りたいと考えております。

第12回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 平成27年7月4日（土） 14:00～17:00
 場 所 熊本大学医学部保健学科E506（5F）
 出席者数 64名
 議 長 小川俊一先生
 （熊本市市民病院中央放射線部技術主幹）

<総会式次第>

開会の辞
 同窓会会長挨拶
 保健学教育部長挨拶
 議長選出
 議事

1. 平成26年度事業及び会計に関する報告

- ① 事業報告
- ② 決算報告
- ③ 監査報告

2. 平成27年度事業計画（案）

3. 平成27年度予算（案）

4. 同窓会表彰

看護学専攻：下川佳那子さん、生川啓子さん
 放射線技術科学専攻：山浦直人さん
 検査技術科学専攻：比良泰士さん

5. その他

閉会の辞

【議事要旨】

春田副会長より開会が告げられ第12回同窓会総会が開会された。

最初に、橋田会長が会を代表して挨拶を行い、続いて保健学科長・保健学教育部長吉永先生のご挨拶が行われた。その後、小川先生（中央放射線部技術主幹）が総会議長に選出され、議事に従い4項目の議案の審議が行われた。

1. 平成26年度事業報告及び会計に関する報告

橋田会長より保健学科のオープンキャンパスへの支援や同窓会会報第10号発行、第11回同窓会連合会への参加、卒業生表彰等、1年間の事業が報告された。松本会計幹事より26年度の会計について決算状況が報告された。その後、木村監事より平成27年3月27日に行った会計の監査結果について、適正であったとの報告が行われた。質疑応答では特に質問はなく、その後賛成多数で平成26年度事業報告、決算報告並びに会計監査報告は賛成多数で承認された。

2. 平成27年度事業計画（案）について

橋田昌弘長より、平成27年度事業計画（案）について説明があり、昨年の事業に加えて、同窓会表彰、名簿作成が今年度に行われる旨の説明があった。

3. 平成27年度予算（案）について

平成27年度予算（案）について松本会計幹事より説明があった。昨年度からの変更は、総会の広報をハガキからチラシへ変更した旨、また同窓会表彰の経費が新たに加わった旨の説明があった。また橋田会長から同窓会名簿作成に関する説明が行われた。質疑応答では特に質問はなく、その後、採決を行い、参加者の賛成多数で平成27年度事業報告（案）、平成27年度会計予算（案）は承認された。

4. 同窓会表彰

平成27年度同窓会表彰が行われ、橋田会長から看護学専攻 下川佳那子さん、生川啓子さん、放射線技術科学専攻 山浦直人さん、検査技術科学専攻 比良泰士さんへ感謝状が送られた。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、降壇した。

最後に、春田副会長よりと閉会の挨拶があり、同窓会総会は無事に終了した。

次に各専攻の紹介において、看護学専攻 井村先生、放射線技術科学専攻 丸山先生、検査技術科学専攻 春田先生から各専攻紹介が行われた。

最後に特別講演として熊本県民テレビ報道局アナウンス部 村上美香先生より「からだとココロの話～子宮頸がんの体験と取材から～」と題した講演会を行い、その後、懇親会が行われた。

平成27年7月4日
 議事録署名人 大野 剛



会場風景



学生表彰

特別講演

「からだとココロの話」 ～子宮頸がんの体験と取材から～

村上 美香 様 (KKTくまもと県民テレビアナウンサー)



熊本県民なら知らない人はいない、「テレビタミン」でおなじみの村上美香様に、「からだとココロの話～子宮頸がんの体験と取材から～」という題で御講演頂きました。講演の中で、子宮頸がんの最新の知識を非常に分かりやすく、時にはユーモアも交えて、お話し頂き、子宮頸がんに対する理解が深まりました。御自身の子宮頸がん罹患の経験談からは、定期的に検診することの重要性や、罹患した場合の周囲の人々のサポートがいかに大切かということを教えて頂きました。

皆様も、この機会に、家族や友達、愛する人と子宮頸がん検診について、真剣に話し合ってみませんか。



懇親会風景



原稿募集！！

あなたの同窓会を載せてみませんか？

同窓会を開催して

医療技術短期大学部看護学科 4期生 小川 裕見子 (旧姓白石)

平成26年8月2日(土)18時30分より紅欄亭にて、医技短看護科4回生の同窓会を開催しました。参加者は、先生8名、同窓生23名。最高齢の園田志津子先生には、宮崎より駆けつけて頂きました。今もなお教壇に立っておられたり、メスを持って仕事をされていたり、いろいろな活動をされている先生方のお姿に、同窓生の方が刺激を受けました。今までに2回程同窓会をしていますが、初めての参加者もいて、楽しいひと時を過ごしました。



第6回熊本大学東京連合同窓会、開催される!

医療技術短期大学部衛生技術学科 2期生 関東地区代表 松下 洋一 e-mail:kirishima-matsu2@tune.ocn.ne.jp

平成27年5月30日(土)15時～、東京ガーデンパレスにて、第6回熊本大学東京連合同窓会が開催されました。東京連合同窓会は、各学部の東京(関東)在住の同窓会組織から構成された、熊本大学の同窓会で、隔年で総会、講演会、交流会を開催しています。講演会では、今年度から就任された原田信志学長の「熊本大学の将来展望」と理学部の戸田教授の「熊本の大気・世界の空気をみる」の2題の講演がありました。

保健学科同窓会も連合同窓会の一員として参加していますが、毎回の参加人数が2～3人と寂しい状態です。是非、多くの皆様の参加をお願いいたします。東京(関東)在住の皆様、同窓会にて昔話で盛り上がりましょう!!



熊本大学卒業生表彰

平成26年度国立大学法人熊本大学卒業生表彰の表彰式が、11月1日の第9回ホームカミングデーに開催されました。この表彰は、熊本大学の発展又は社会からの理解促進につながる顕著な功績のあった本学卒業生に対し、学長が行うもので、今回は第3回になります。

本年度、保健学科同窓会より以下の方々が表彰されました。

- 高宗 和子 (熊本大学医学部附属看護学校 昭和42年卒業)
- 宮里 邦子 (熊本大学医学部附属看護学校 昭和44年卒業)
- 守部 伸幸 (熊本大学医学部附属診療エックス線技師学校 昭和44年卒業)
- 戸坂 雅一 (熊本大学医学部附属衛生検査技師学校 昭和42年卒業)

平成27年度国立大学法人熊本大学卒業生表彰の表彰式は、10月31日の第10回ホームカミングデーに開催されます。



第3回卒業生表彰者

国家試験合格状況

平成27年4月

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国(含既卒者)		
		受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%) <small>(うち新卒者)</small>
看護 師	22	71	70	98.6	54,138	49,688	91.8
	23	70	69	98.6	53,702	48,400	90.1
	24	67	67	100.0	56,530	50,224	88.8
	25	68	68	100.0	58,891	52,900	89.8 (95.2)
	26	70	69	98.6	60,947	54,871	90.0 (95.5)
保 健 師	22	80	75	93.8	14,819	12,792	86.3
	23	78	74	94.9	15,758	13,555	86.0
	24	72	71	98.6	16,420	15,764	96.0
	25	73	73	100.0	17,308	14,970	86.5 (88.8)
	26	74	74	100.0	16,622	16,517	99.4 (99.6)
助 産 師	22	14	14	100.0	2,410	2,342	97.2
	23	14	13	92.9	2,132	2,026	95.0
	24	13	13	100.0	2,113	2,072	98.1
	25	12	12	100.0	2,079	2,015	96.9 (97.6)
	26	10	10	100.0	2,037	2,034	99.9 (99.9)
診療放射線技師	22	36	35	97.2	2,409	1,712	71.1
	23	39	38	97.4	2,528	2,109	83.4
	24	35	31	88.6	2,426	1,615	66.6
	25	35	34	97.1	2,907	2,224	76.5 (89.9)
	26	42	39	92.9	2,839	2,094	73.8 (85.2)
臨床検査技師	22	30	30	100.0	3,959	2,652	67.0
	23	37	35	94.6	4,012	3,027	75.4
	24	39	34	87.2	4,097	3,162	77.2
	25	41	40	97.6	4,148	3,368	81.2 (94.3)
	26	37	36	97.3	4,298	3,528	82.1 (93.8)

平成26年度卒業生の進路状況等について

H27.5.7

看護学専攻（卒業生74名）		
(就職)		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	16
熊本市立熊本市市民病院	熊本県	1
熊本赤十字病院	熊本県	1
社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院	熊本県	1
医療法人団体愛育会福田病院	熊本県	2
医療法人博光会御幸病院	熊本県	1
本田技研熊本製作所健康管理センター	熊本県	1
宇土市役所	熊本県	1
山鹿市役所	熊本県	1
八代市役所	熊本県	1
熊本県庁	熊本県	1
熊本市	熊本県	1
九州大学病院	福岡県	7
久留米大学病院	福岡県	1
福岡大学病院	福岡県	6
国家公務員共済組合連合会浜の町病院	福岡県	2
社会福祉法人恩賜財団済生会支部済生会二日市病院	福岡県	1
日本赤十字社福岡赤十字病院	福岡県	1
北九州市立医療センター	福岡県	1
医療法人社団高邦会高木病院	福岡県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	1
国家公務員共済組合連合会新別府病院	大分県	1
国立病院機構西別府病院	大分県	1
佐賀県庁	佐賀県	1
佐賀市役所	佐賀県	1
琉球大学医学部附属病院	沖縄県	1
鹿児島市立病院	鹿児島県	1
東京医科歯科大学医学部附属病院	東京都	4
慶應義塾大学院	東京都	1
東京大学医学部附属病院	東京都	1
独立行政法人国立国際医療研究センター病院	東京都	1
独立行政法人国立成育医療研究センター	東京都	1
日本大学医学部附属板橋病院	東京都	1
大阪大学医学部附属病院	大阪府	1
社会医療法人生長会ベルランド総合病院	大阪府	1
大阪医科大学附属病院	大阪府	1

看護学専攻（卒業生74名）		
大阪府済生会中津病院	大阪府	1
社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷浜松病院	静岡県	1
未定		1
就職小計		71
(進学)		
熊本大学養護教諭特別別科	熊本県	3
進学小計		3

放射線技術科学専攻（卒業生42名）		
(就職)		
地域医療機能推進機構熊本総合病院	熊本県	1
熊本赤十字病院	熊本県	1
熊本市立熊本市市民病院	熊本県	1
社会医療法人社団高野会高野病院	熊本県	1
医療法人財団聖十会西日本病院	熊本県	1
球磨郡公立多良木病院	熊本県	1
公立玉名中央病院	熊本県	1
医療法人清和会平成とうや病院	熊本県	1
北九州市立病院	福岡県	1
九州大学病院	福岡県	1
福岡市立病院機構	福岡県	1
医療法人社団高邦会高木病院	福岡県	1
医療法人社団高邦会福岡三王病院	福岡県	1
社会医療法人天神会	福岡県	1
株式会社社麻生飯塚病院	福岡県	1
医療法人原三信病院	福岡県	1
公立八女総合病院	福岡県	1
長崎大学病院	長崎県	2
日本赤十字社長崎原爆病院	長崎県	1
独立行政法人労働者健康福祉機構長崎労災病院	長崎県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	2
大分県厚生連 鶴見病院	大分県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	3
佐賀県医療センター好生館	佐賀県	1
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院	鹿児島県	1
大阪大学医学部附属病院	大阪府	1
神戸大学医学部附属病院	兵庫県	1
東芝メディカルシステムズ株式会社	栃木県	1

放射線技術科学専攻（卒業生42名）		
医療法人沖繩徳洲会四街道徳洲会病院	千葉県	1
未定		2
就職小計		35
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	6
熊本大学大学院医学教育部	熊本県	1
進学小計		7

検査技術科学専攻（卒業生38名）		
(就職)		
社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院	熊本県	2
社会医療法人社団高野会高野病院	熊本県	1
整形外科井上病院	熊本県	2
地域医療機能推進機構熊本総合病院	熊本県	2
熊本赤十字病院	熊本県	1
医療法人済生会中央クリニック	熊本県	1
熊本血管外科クリニック	熊本県	1
株式会社クリニカルパソロジーラボラトリー	熊本県	1
熊本市	熊本県	1
医療法人社団高邦会高木病院	福岡県	2
特定医療法人北九州病院北九州総合病院	福岡県	1
社会医療法人財団白十字会白十字病院	福岡県	1
株式会社社麻生飯塚病院	福岡県	1
聖マリア病院	福岡県	1
社会医療法人財団白十字会佐世保中央病院	長崎県	1
地域医療機能推進機構早総合病院	長崎県	1
国立病院機構(九州グループ)	大分県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	2
医療法人社団善仁会市民の森病院	宮崎県	1
宮崎県	宮崎県	2
国家公務員共済組合連合会呉共済病院	広島県	1
株式会社 LSIメディエンス	東京都	1
未定		2
就職小計		30
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	6
熊本大学大学院医学教育部	熊本県	2
進学小計		8



保健学科教員紹介

(平成27年7月現在, 五十音順)

◆看護学専攻

【基礎看護学講座】

教授：☆前田ひとみ
講師：永田まなみ
助教：有松操 南家貴美代

【看護教育学講座】

教授：花田妙子
助教：福山美季

【臨床看護学講座】

教授：宇佐美しおり 河野宏明 國府浩子
三笠里香
准教授：柊中智恵子 谷口まり子 中尾富士子
助教：石飛マリコ 樋口有紀 小瀨京子
宮崎志保

【母子看護学講座】

教授：田代 浩徳
准教授：坂梨京子
講師：寺岡祥子
助教：生田まちよ 島田久仁子 吉田佳代

【地域看護学講座】

教授：上田代 西阪和子 東 清巳
准教授：日浦瑞枝 安武綾
助教：松本佳代 松本千晴

◆放射線技術科学専攻

【医用理工学講座】

教授：白石順二 ☆富吉勝美 船間芳憲
准教授：内山良一 米田哲也
助教：大野 剛 辻田直子

【医用画像学講座】

教授：○荒木不次男 伊藤茂樹 富口静二
佛坂博正 村上龍次
准教授：島村正道
講師：藤原康博

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学講座】

教授：大林光念 柳沼裕二 ◎吉永一也
講師：伊藤雅浩
助教：橋本弘司 田崎 雅義

【生体情報解析学講座】

教授：乾誠治 大坪和明 大森久光 奥宮敏可 ☆三森龍之
准教授：畑裕之
助教：梶原隆太郎 森信子

◎保健学科長・保健学教育部長 ○副保健学科長・副保健学教育部長
☆保健学科各専攻主任

熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は在籍した者
 - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は在籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は在籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は在籍した者
 - ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は在籍した者並びに在学生
 - 二 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は在籍した者および在学生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 2名
 - 三 理事 12名
（看護6名、衛生3名、放射3名）とする。
 - 四 幹事 7名
 - 五 会計 2名
 - 六 監事 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
 - 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
 - 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
 - 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
 - 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算
 - 三 会則の制定及び改廃
 - 四 役員を選出
 - 五 顧問の推挙
 - 六 その他の必要と認める事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第17条 会長は必要と認めたとき、臨時総会を開催する

- ことができる。
- 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
- 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
- 第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。
- 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金、その他の収入を持って充てる。
- 第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。
- 附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。
 - 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 旅費に関しては、旅費規程に則って支給する。
 - 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
 - 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。
 - 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。
 - 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
 - 本細則の改正は、同窓会総会で行う。
- 附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成25年4月1日から施行する。

平成27年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員

- 名誉会長：吉永一也（熊本大学大学院保健学教育部長 熊本大学医学部保健学科長）
- 会長：橋田昌弘（熊本大学医学部附属病院 医療技術部）
- 副会長：肥合康弘（帝京大学福岡医療技術学部）
春田昭一（済生会熊本病院）
- 九州連合同窓会幹事：
南光昭（九州労災病院）
荒木加代子（NTT西日本人事部医療厚生部門）
藤村佳世子（九州ブロック血液センター品質部検査三課）
- 東京連合同窓会代表：
松下洋一（㈱バイオトクステック）
- 理事：
（看護） 田中シゲ子（旧医療技術短期大学部教員）
本尚美（熊本大学医学部附属病院 看護部）
田中紀美子（九州看護福祉大学）
小藺真知子（熊本保健科学大学 言語聴覚学専攻）
大澤早苗（熊本保健科学大学）
宮里邦子（九州看護福祉大学）
（放射） 荒木不次男（熊本大学医学部保健学科）
和田博文（済生会熊本病院）
大野剛（熊本大学医学部保健学科）
（検査） 増永純夫（熊本中央病院）
前田浩（熊本市市民病院中央検査部）
中村直子（熊本大学生命資源研究・支援センター）
- 幹 事：
（看護） 井村昭寛（熊本整形外科病院）
島田久仁子（熊本大学医学部保健学科）
（放射） 辻田直子（熊本大学医学部保健学科）
（検査） 田崎雅義（熊本大学医学部保健学科）
梶原隆太郎（熊本大学医学部保健学科）
高島裕子（元熊本大学医学部附属病院 医療技術部）
- 会 計：松本佳代（熊本大学医学部保健学科）
吉田佳代（熊本大学医学部保健学科）
- 監 事：右田香魚子（元熊本大学医学部附属病院 看護部）
木村真知子（元熊本大学医学部附属病院 看護部）
- 学生幹事：下川佳那子（熊本大学医学部保健学科看護学専攻）
生川啓子（熊本大学医学部保健学科看護学専攻）
山浦直人（熊本大学医学部保健学科放射線技術科学専攻）
比良泰士（熊本大学医学部保健学科検査技術科学専攻）

編集後記

今年度の同窓会総会および懇親会も、例年通り7月第1土曜日に開催されました。総会後には、これまで会報誌面のみでご紹介していた職場紹介がありました。同窓生の職場や近況について、会場でお話を伺うのは初めての事です。在学生には、道しるべとなる同校の先輩方の話は、刺激となったようでした。私どもも、同窓生のご活躍を知る機会ができました。

ご紹介いただいた内容は、本誌にも掲載しております。会報を通して、大学や同窓生の息吹を、少しでも感じていただければ幸いです。最後になりますが、会報編集にあたりまして、ご寄稿くださいました皆様方へ深く感謝申し上げます。
(保健学科同窓会役員：井村昭寛、島田久仁子、田崎雅義、辻田直子)



看護職員募集

熊本大学医学部附属病院看護部

熊本大学医学部保健学科同窓生の皆様へ
“私たちと一緒に働きましょう”

私たちの病院は、看護職員一人ひとりが専門職としての能力向上につながるキャリア開発支援と活き活き働き続けられる職場づくりを目指しています。

病院も再開発が進み新しくなりました。学生時代に学んだ熊本大病院で看護をしてみませんか。
詳細はホームページをご覧ください。

